

○ 野洲市民病院の設置に係る総合体育館・なかよし交流館の利用等に係る対策について

区分①	区分②	No.	課題事項	内容	対策方法①	対策方法②	対策方法③	資料ページ
本体工事期間 (R6.1～R8.10)	国スポ・障スポ期間	1	大会期間中の平穏対策	大会期間中の騒音・振動・安全確保はどうするのか。	本大会は本体工事の期間中であるが、休日同様に工事・作業は行わない。	本大会の日程決定後、相当時間があることから、工事休止等日程の調整は十分可能である。	リハ大会までに準備工事を終えるため、リハ大会は工期外となる。	14
		2	駐車場確保	大会中の駐車場として420台を確保することで中央競技団体が確認しているため、これ相当の確保が必要。	ぎおうの里横市有地を除草・転圧等して一定整備すれば50台程度の確保が見込める。	第一駐車場/現行140台の内 ・おもてなし広場 ・送迎バス寄り付き ・タクシー乗降場 を確保した残で53台を確保 →別紙	第二駐車場（裏）については、大会期間中は工事等一切実施しない。319台確保 合計「422台」確保見込み →別紙	15
		3	敷地内会場の確保1 (おもてなし広場)	当初の計画では、温水プール跡地(約2500㎡)を予定していたが、病院の整備対象地となったため、別に確保する必要がある。	第一駐車場の西側約45%を当該ブースに確保。 テント15+3張設置可能			15
		4	敷地内会場の確保2 (仮設大会本部兼会議室)	体育館事務所とは別に大会事務局用に確保する必要がある。	なかよし交流館を期間中は国スポ等事業で占用し、同施設(会議室等)に確保することを検討する。			15
		5	敷地内会場の確保3 (障スポ大会用の諸室の確保)	障スポ期間中については、さらに専用の諸室等の設置が必要になる。	「1補助犬トイレ」「2補助犬待機場所」については、なかよし交流館屋外敷地で確保を検討する。	「3～9」については、なかよし交流館を期間中占用して確保することを検討する。		16.17.18
		6	外階段の確保	選手・監督、大会役員と、一般観覧者は、IDパスの所持如何でエリア区分し、一般観覧者は2階観覧席のみとなる。このコントロールのため、外階段の設置(移設)は大会までに必須である。	外階段の撤去・代替施設の設置は、令和6年夏に完了できるよう工程を検討している。	外階段の幅員、現行の8m中は過大と考えることから、約5m中を確保する。 〔参考〕 野洲駅南口階段：巾3m	19.20	
		7	中央競技団体への再説明	正規視察がすでに済んでいることから、大幅変更として再説明が必要である。	市長執行部としても関係対応について十分連携して当たる。			-
		8	行幸啓、御成りの環境・警備	皇族方をお迎えするにふさわしい会場環境の確保が可能か。工事現場があることで、警備が困難化しないか。	行幸啓や御成りはもちろん、来場者の混雑回避のため、体育館会場と工事現場(仮囲い)との離隔距離は約15mを確保する予定。	仮囲いの高さは約3m。デザインについても、白の矢板のみとせず、期間中等は植樹鉢を配置するほか、必要箇所(玄関等映込み場所)に関しては、壁面に造作することも検討する。	警備については、期間中は工事を止める(現場警備員は勤務)ため、大きな支障には及ばないと思料する。また、建造物の高さについても、既存の体育館と大差は生じないと思料する。	21.22.23. 24.25
		9	来館車両の誘導等	工事期間中の工事車両と来館者の車両混線等の防止が必要	交通誘導員を複数名配置し、来館者優先で交通整理を行う。			26

○ 野洲市民病院の設置に係る総合体育館・なかよし交流館の利用等に係る対策について

区分①	区分②	No.	課題事項	内容	対策方法①	対策方法②	対策方法③	資料ページ
	国スポ・障スポ期間外	10	工事車両の進入動線の分離	工事車両の進入動線は一般来館車両とは分離することが必要。	工事車両については、市道に面して工事ヤードに出入口を設置し、一般車両と完全に分離する。			26
		11	工事関係者の駐車場の確保	工事期間中は相当数の工事関係者車両の駐車が想定されるが、体育館利用者の駐車に支障が生じないようにする必要がある。	ぎおうの里横市有地を除草・転圧等して一定整備すれば50台程度の確保が見込める。			27
		12	工事ヤードと体育館との分離	工事期間中の仮囲いについては、体育館来場者に支障が生じないように、一定の分離させることが必要である。	来場者の混雑回避のため、体育館会場と工事現場（仮囲い）との分離距離は約15mを確保する予定。			21.22. 23.24
第2駐車場における立体駐車場設置工事期間（令和8.4～R8.10）	国スポ・障スポ期間外	13	期間中（約半年）、駐車台数が全体で270台程度に減少	第2駐車場に設置することから、期間中、駐車台数が約200台制限され、第1と合わせて270台程度になると見込まれる。	体育館の通常利用においては特に支障はないと見込む。	大会等開催日については、開院後同等の対策を実証実験として実施し、主催団体等と連携した駐車許可方式や観光バスの回送方式によりオーバーフローを回避する。		28
		14	駐車場確保	全580台の駐車台数を確保したうえで、最大で平日午前は400台を病院来院者及び職員等が使用すると想定される。	体育館の通常利用においては特に支障はないと見込む。	大会等開催日については、主催団体等と連携した駐車許可方式や観光バスの回送方式によりオーバーフローを回避する。		29.30.31.32
		15	敷地内車両動線1	体育館来館者（車）との棲み分け等、利用者等に混乱が生じないように対策する必要がある。	基本設計の段階で、体育館スタッフとの協議を経て、専門家の意見を踏まえ決定する。	想定される方法として… 体育館来館者と病院来院者の車両動線及び駐車区画は区分せず原則共用とし、	体育館正面第1駐車場の現出入口を敷地への車両出入口とし、入場車線、右・左折の出場レーンを設置すべくゲートを拡幅する。 第1駐車場が満車の場合、同横出口を機能させ、第2駐車場に車両を円滑に迂回させるべく、駐車場内は一方通行を徹底するとともに、迂回路出場口には交通誘導員を配置する。	33
		16	敷地内車両動線2	第1駐車場からの出場車の混雑懸念	出場のピークは11時～12時の1時間と目するが（h30調査）、5分間に10台程度であることから、大きな滞留は生じないと考ええる。	出場のピークは11時～12時の1時間と目するが（h30調査）、5分間に10台程度であることから、大きな滞留は生じないと考ええる。	対策として、体育館正面第1駐車場の現出入口を敷地への車両出入口とし、入場車線、右・左折の出場レーンを設置すべくゲートを拡幅する。（再掲）	左折に関して、信号までの距離は70m程度ある。

○ 野洲市民病院の設置に係る総合体育館・なかよし交流館の利用等に係る対策について

区分①	区分②	No.	課題事項	内容	対策方法①	対策方法②	対策方法③	資料ページ	
開院後～	総合体育館	17	体育館・病院建物間のスペース確保	体育館玄関に向かっての動線に、入退場に十分な人溜りスペースが必要 選手のウォーミングアップスペースを建物周辺に確保する必要 大規模大会時の物販エリア等の不足。	病院建物の西側には車両動線やフェンス等の結界は設けないほか、玄関口も市道側とすることで大きな人流も作らないようにする。これにより、温水プール設置時と同様、病院壁面までを体育館利用者のスペースとして使用できるようにする。	体育館との離隔距離は、南側付近及び玄関付近で18m、北側付近では28m程度確保することができる見込みであるため、ウォーミングアップ、物販等のスペースも確保可能と考える。	北側付近には、温水プール設置時よりも広いスペースを確保することが可能であることから、ウォーミングアップスペースとして、例えば人工芝の敷設等も検討する。また、1階窓には格子を設置する。	36	
		18	大階段の撤去によるレストスペース	大階段下は、現状、雨宿り・日陰スペースとなっている。ロビー内にスペースが取れないため、斯かるスペースの確保や、自動販売機の配置が必要である。	大階段相当程度、玄関前等の軒を延ばすことを検討する。	病院の売店は、院外からも利用可能であり、設置場所を工夫して、体育館利用者の利便にも可能な限り供せるよう検討する。		36	
		19	市民病院が隣接することによるプラス影響1	市民病院が隣接することによる利用者・選手等のケガ疾患への対応は	2次救急医療機関であることから、高度な救命救急医療を要するようなケガ疾患でなければ、基本的に病院の救急外来窓口への来院等により対応が可能である。				-
		20	市民病院が隣接することによるプラス影響2	災害時の避難者の安心確保等	総合体育館は1,859人収容の市内最大の指定避難所である。避難期間中に体調に不良を来す人も多い中、市民の安心度は高まると思料する。	多数のケガ人が出る災害においては、搬送患者等の治療順を見極めるトリアージに一定のスペースを要する。隣接して一定のフロア面積を有する公共施設が立地することは、それをスムーズ化する。			-
	なかよし交流館	21	「音に敏感な人」への配慮	利用する障がい者の中には、音に過敏な人もおり、救急車のサイレンでパニック等を起こされるリスクを懸念する。	救急動線は、建物の東側（中の池川側）である。敷地内に入ればサイレンは停止される。	救急車の搬入台数は、299件（R2）と概ね300件前後であり、頻繁ではない。			36
		22	「介護予防事業」「医療的ケア児の居場所事業」と、現在事業との共存	提案されている「介護予防事業」「医療的ケア児」の居場所事業と、現在のなかよし交流館事業との調整は可能か。	開院までに一定の時間的余裕があることから、積極的な事業計画の一環として、指定管理者等と協調して検討していきたい。				-
		23	立体駐車場との関係	立体駐車場は、なかよし交流館に抵触しないか	なかよし交流館の敷地外（フェンス外）に低層（1層2段）で整備するもの。	駐車場となかよし交流館の間には必要な離隔を確保する。	2階部分は職員駐車場であることから、利用者が多い時間帯の入出場は基本的に避けられると考える。		37

○ 野洲市民病院の設置に係る総合体育館・なかよし交流館の利用等に係る対策について

区分①	区分②	No.	課題事項	内容	対策方法①	対策方法②	対策方法③	資料ページ
本体工事期間 (R6.1～R8.10)		24	第2駐車場における立体駐車場設置工事期間中の、なかよし交流館の来館者の安全確保	第2駐車場における立体駐車場設置工事期間中の、なかよし交流館の来館者の安全確保は可能か	工事期間中は仮囲いを設置して警備員を配置しながら工事を実施する。			37